

日本聖公会婦人会 2015年2月3日

## ニュースレター NO. 62

〒520-0044 大津市京町1丁目2-21 大津聖マリア教会気付  
TEL077-522-6144 FAX077-524-8343

### 《雪どけ》

日本聖公会婦人会

担当主教 ステパノ 高地 敬(京都教区)

この冬は暖かいと言われていたのに、例年より寒くなっているようです。昨年12月から各地で大雪で、京都市内でもお正月に20センチくらい積りました。これでも京都市内としては大雪で、元旦の朝に普通の靴で出かけて、帰りが夜になった人は大変だったと思います。

前に北陸の金沢に何年かおりましたが、冬場にしぐれ模様になると、にわかには掻き曇って風が吹き、あられがザーッと降って面白くなって止むという降り方で、それが何回か繰り返し、また、時には雷が伴っていました。その激しさに、日本海側の天候の厳しさを感じておりました。一方、雪がしんと降る時は、朝起きたら30センチも積もっていることがあって、早朝から雪かきに追われました。

雪が降ってあたりが真っ白になると、きれいな物もそうでない物も一様に覆われて、なんとなくほっとするようなこともあります。地上のすべてのものの上に雪が降って、いろんな煩わしいことから解放されるように感じるからでしょうか。

見たくない物が何かに覆われて見えなくなる。雪でなくてもこのようなことが起こります。自分にとっていやな物、嫌いな物、醜い物には目をふさぎ、実際にあるのにないものとして扱う。自分と意見の合わない人はいないと思えば、心が安らぐのでしょうか。社会のさまざまな分野で、都合の良いものはないことにするということが起こります。実在のものを冬の嵐のように激しい勢いで覆い隠し抹殺してしまう。

さらに、自分の中の汚い部分、弱い部分、疲れている部分に覆いをして、人が見ないようにしたり、自分も見ないことにすることがしばしばあるように思います。自分にはそんなマイナスの部分はなく、いつも明るく元気にやっていけるんだと、自分を偽ることが私自身とても多く、本当の自分がよく分からなくなっているのだと思います。

見たくない物や都合の良い物にすぐに雪のような覆いをかけてしまう私たちですが、イエス様はそんな私たちの弱さを受け留め、一人ひとりに寄り添って暖かい命の息をそっと吹きかけ、雪の覆いを少しずつとかして下さっているのではないのでしょうか。だからこそ私たちは本当の自分を少しずつ取り戻し、そして、周りの人たちの上に積もった雪も少しずつとかすお手伝いが出ていくでしょう。私たち自身の雪どけが約束されておりました。



## 2014年被献日献金活用報告


被献日献金から学びの支援をさせていただいた方々の報告を掲載させていただきました。1月初旬に申請書類を送らせていただきましたので、申請を検討される方のご参考になればと思います。

### 《神学生枠》



聖公会神学院 1年生

やまとたかあき


洗礼者ヨハネ 大和孝明(東京教区) 

このたびは、被献日における皆様のご厚意により、多くの本をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。4月から始まった神学院の生活は、祈りと勉学が中心です。今回お願いしました本は、ギリシャ語の聖書や最新版の祈祷書、聖書日課等、神学院で学ぶ上で欠かせないものばかりです。いただいた日から、私はこれらを活用しています。線や書き込みは、いただいた当時と比べ、ずいぶん増えました。中でもギリシャ語聖書は、祈りと勉学の両方に関わる大切な本であり、私にとっての生命とも呼ぶべき本です。原語の響きを通して、イエス様が語りかけてくれるようです。これから卒業までの2年半、さらなる線や書き込みを加えて、ぼろぼろになる位に、自分のものとして吸収したい、そして神様と皆様のために仕える僕として、用いていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。



聖公会神学院 3年生

カン ヒョンジュン

テモテ 姜 炯 俊(横浜教区) 

2014年度に入って神学院でヘブライ語という科目を取るようになりました。実はもう少し早く取りたかったんですけど、講師の事情でなかなかヘブライ語の授業を取ることができず、3年生になってようやく授業を取ることができました。


待ち望んでいたヘブライ語の授業でしたけど、やはり何もない状態で言語を勉強するということがかかなり大変でした。その中での被献日献金の機会が与えられ、幸いなことに3年生の後期からは被献日献金で頂いた『ヘブル後大辞典』を使いながら勉強するようになりました。

言語、特に「聖書の言語を学ぶ」ということには辞書というものが何よりも心強い仲間となります。辞書を開き、聖書の原文を丁寧に探っていく過程は、自分と辞書が一つになって神のみ言葉が示す意味を探していく冒険のようなものです。おそらく神学生時代だけではなく、福音を宣べ伝えるために一生付き合っていく仲間になるでしょう。この心強い仲間を紹介して下さった日本聖公会婦人会の方々に心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思っています。











聖公会神学院 1年生

いりえかずひろ

ローレンス 入江一弘(東京教区) 

今回、被献日献金で「旧約聖書・旧約聖書続編注解(全3巻)」を購入して頂きました。この注解書は他の注解書と異なり、聖公会も制作に参加しており、将来、聖公会の聖職になる自分にとっては旧約聖書・旧約続編の理解を深める上で、基礎になるものとなっていくものとなると思っています。また、旧約続編の注解がない中で、唯一ともいえる注解書であり、常日頃から知恵の書・シラ書・バルク書・ラテン語エズラ書をよく読んでいた私にとっては、これらの文書の今迄以上の理解に役立つものと期待しています。残された神学生としての期間、聖職としての土台を作れるように頑張っていきたいと思っています。





    ウイリアムス神学館 3 年生





ふもと あつこ  
パウラ 麓 敦子(京都教区)    

主の平和。

被献日献金にていただきました書籍についての報告を送らせていただきます。

この度の被献日献金では、「マタイによる福音書」の注解書をいただきました。以前から図書館で目にし、手元に欲しいと願っていた本でしたが、自力ではなかなか入手することのできない高価な本でした。皆様のお心に感謝いたします。いよいよ刻一刻と卒業の時が迫って参りました。4月からの生活を想像すれば、そこには恐れと不安ばかりが渦巻いていますが、皆様からいただいたこの本と、何より皆様の信じがたいほどの多大なお支えを常に心に大切に覚えながら、根気強く、熱い想いを絶やさぬように、神様に示された道を真っ直ぐに歩いて行きたいと祈る今日この頃です。本当にありがとうございました。

    ウイリアムス神学館 1 年生





やなぎはらたけゆき  
ルカ 柳原 健之(京都教区)    





いつも神学生をお支えいただきありがとうございます。今年度ウィリアムス神学館に入学いたしました京都教区神学生の柳原健之です。被献日献金の申請により、聖書の注解書を 4 冊いただき、誠に感謝しています。注解書は聖書研究や奨励作りなどの際に、書いてあることの確認や、聖書箇所がどのような背景をもって書かれているかを知るのにとっても役立っています。

神学館での学びは、覚えることが多く、また毎週のように課題もあり、てんてこまいになりながらも、何とかこなしている状況です。けれどもそんな日々が楽しくもあります。

教会実習の方でも実習先の司祭・信徒の方々を支えられながら、毎週多くのことを学ばせて頂いています。

たくさんの方のご支援があり、支えられていることを忘れず、勉学に邁進して行く所存です。これからもご支援いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

    ウイリアムス神学館 1 年生

つかもと ゆうこ  
セシリア 塚本 祐子(九州教区)    

主の御名を賛美致します。


日本聖公会婦人会のお働きに感謝いたします。希望しておりました図書、『キリスト教大事典』(教文館)は残念ながら絶版となっておりました。代わりに、その原典である The Oxford Dictionary of the Christian Church を購入させていただきました。

入学から半年、それまでに神学やそれに関連する事など殆ど勉強した経験もなく、御言葉一くだけ読み込むにしましても、どう手をつけてよいのやら漠然としていて不安を拭えませんでした。用語について基本を抑えるなら『キリスト教大事典』であろうとアドバイスがあり、手元にひとつ是非置っておきたいと思っておりました。英語ではありますが、心強い後ろ盾が本棚に控えていると思います。これからまだ 2 年半残る神学館での学びも前向きに取り組んでいける気持ちになります。

皆様が被献日献金に込められた思いに少しでもお応えできますよう、日々邁進して参りたいと思います。ありがとうございました。




## ウィリアムス神学館 3年生

としざね いさお  
パウロ 歳 實 勲 (神戸教区) 


神学生に対しましては、いつも学びのための良き環境を整えてくださっていることに感謝いたします。この度、私が頂戴いたしました『旧約新約聖書大事典』は、以前から常に自分の手元に置いていたいと願っていたものです。また、この事典の特徴は、聖書学・古代歴史学・言語学・地理学・宗教学の成果を結集した編集にあると思います。例えば「カイザリア」を引いてみますと、「[ギ]Kaisaria『カエサル市』アウグストゥス、ティベリウス両帝を記念して建てられた都市の名称。・・イエス時代パレスチナ港湾・行政都市（→付録地図）。古くからのフェニキアの城塞ストラトンの塔のあった場所に、前20-10年にかけてヘロデ大王がこの壮麗なヘレニズム都市を建設した。・・・」とありました。そのうえ当時の歴史地図や、現在の航空写真が掲載され、イエス時代におけるこの地の歴史的な位置付けと現在の状況とが正確にしかも簡潔に説明されていました。このように、私にとってこの事典は、手放すことができない必須アイテムの一つとなっています。与えられたこの恵みに感謝いたします。本当に有難うございました。

## ウィリアムス神学館 聴講生

まつやま けんさく  
アンデレ 松山 健作 (京都教区) 

今年度よりウィリアムス神学館で聴講生として学んでいる松山健作と申します。この度、被献日献金の活用として、書籍の奨学金を頂き感謝申し上げます。神学館での学びに必要な文献を申請させて頂きましたが、一部品切れがあり、その他は原発関係、ヘイトスピーチ関係などの文献に振替させて頂きました。特に今年度は、教区実習において、日韓聖公会青年セミナー（主題「ゆこう、核を越えて、東アジアの平和へ」）のスタッフとして参加させていただき、仙台、新地などを訪れる機会をいただきました。その事前の学びとして、原発関係の書籍は、神学書とはまた異なる学びを私に与えてくれました。まだすべてを読破せずにおりますが、今後、これらの社会的課題と聖書におけるメッセージを対照して考え、学ぶことができればと願っています。最後に、神学生のために祈り、支えて下さる日本聖公会婦人会のみなさまに深く感謝し、私の報告書とさせていただきます。

## ウィリアムス神学館 2年生

えんどうようすけ  
テモテ 遠藤 洋介 (神戸教区) 

主の御名をたたえます。

いつも私たち神学生のためにお祈りとお支えをいただき感謝いたします。




この度は、被献日献金で貴重な書籍を購入していただきありがとうございました。

購入していただいた書籍はどれも貴重で高価なもので神学生の身分では欲しくても手に入れられないというのが現状でした。「聖書学用語辞典」や「引照付き聖書」は授業ではもちろんですが、教会実習の聖書研究での準備などにとっても役立たせていただいております。また、塚田理司祭様著作の「イングランドの宗教」は、今、私がたいへん興味を持っている英国国教会の成立過程と聖公会の神学を学ぶのにとっても大切な書籍なのですが、それだけ貴重な本ということもあり、とても高価で手に入れられませんでした。しかし、こうしてご支援していただいたおかげで購入することができ、学びの糧を与えてくださったことを心から感謝致します。

購入してくださった書籍はどれも本当に素晴らしい本ばかりなので、今まで以上に勉学に励み、しっかりと使いこなしていきたいと思っております。

この度は、被献日献金をこのように活用して、私に貴重な本を手に入れる機会を与えてくださりありがとうございました。

   聖公会神学院 3 年生

あべ けいこ  
エリザベツ 阿部 恵子(北海道教区)   

主の平和

いつも神学院を覚え、祈りに加えてくださいますことを感謝いたします。

また、今年度もお献げものの中から私の希望の書籍、『女性の視点によるキリスト教神学辞典』と『キリスト教礼拝・礼拝学辞典』を頂くことが出来ました。本当にありがとうございます。

私は、今年度前期、「聖書の女性」という講座を学びました。その時、旧約・新約聖書には、数多くの女性たちが登場しますが、聖書の著者が全て男性であったところから、どうしても女性に対する視点が片寄りがちになっているということを強く私の中で感じました。


例えば、「姦淫の女」の箇所では、当時、やもめとなった女性が一人で共同体の中で生きて行くことが、非常に困難であった背景を考えた時に、彼女はそうせざるを得なかったことが分かってきます。

つまり、物事の判断には一方向からではなく視点を变えて、角度を変えて、判断する大切さがこの箇所から理解できました。

このことは勿論、女性同士の対話だけによらず、全ての人と対話する時に大切なコンセプトになると思います。

ですから、授業を通して、書籍を通して学び得たことを私の今後につなげていけるように考えています。これからも宜しくお願いいたします。

在 主。




   聖公会神学院 1 年生




うえひら さら  
ノア 上 平 更(北海道教区)   

主の平安が皆様にありますように。

この度、被献日献金活用の申請を受諾いただき、教文館より出版されている『旧約新約聖書大事典』をご恵贈いただきまして、誠にありがとうございます。神学院での毎日の授業やレポート作成のため、また聖書の世界観を豊かに学ぶために早速活用させていただいております。3年間の学びの中でこの事典の知識を一つでも多く自分のものとして身につけ、現場での奉仕に活かしたいと思っております。

イエス様が誕生して神殿で捧げられた時、預言者シメオンが感謝と賛美を持ってメシアがこの世に遣わされたことを宣言されました。今ある私たちの教会も「救い主が来た」という喜びを世に伝えることができるよう、この日を覚えて祈りを捧げられていることを感謝致します。まだお会いしたことのない多くの方々も含め、教会の皆様から支えられていることを、この本を使う度に思い出して、これからの学びに用いさせていただきます。

   聖公会神学院 2 年生

おおやま ようへい  
ミカエル 大山 洋平(北関東)   

こんにちは、北関東教区神学生のミカエル大山洋平です。このたびは、日本聖公会婦人会の被献日献金から『人名辞典』をいただきました。神学院の学びの中で、また様々な場面でお話をさせていただく際、この『人名辞典』のお世話になりました。



ウイリアムス神学館 3年生

くぼた まさと

パウロ 窪田 真人(横浜教区) 

全国の婦人会員の皆様の尊い献金によって、希望しておりました図書を購入していただきましたことを心からお礼申し上げます。

今回、購入していただきました図書は、『日本キリスト教歴史大事典』でした。

ウイリアムス神学館では3年次に卒業小論文が控えておりますが、テーマとして選択した内容の論文を作成する上で今回ご購入いただきました図書は必要不可欠でしたが、個人として購入するにはあまりにも高価で悩んでおりました。被献日献金活用の制度によって入手することができ、大変嬉しい限りです。いただいた図書は主に論文作成の際の用語説明、また理解を深めるために使用しています。

皆様が被献日献金に込められた思いに少しでもお応えできますよう、日々の勉学に邁進していく思いであります。最後になりましたが、これからも日本聖公会婦人会の皆様のお働きの上に神様の祝福が豊かにありますよう、お祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



## 《教役者粹》



フランシス 司祭 趙 <sup>ちょう</sup>ジョンピル (大阪教区) 

日本聖公会婦人会の被献日献金からの援助を頂戴し、修道院での良い学びができました。婦人会の皆さまに感謝の言葉を申し上げたいと思います。

今回は教会と修道院の都合で、フランシスコ修道院に日時と場所を変更して行くことになりました。目的は趙司祭の霊的な訓練と来年の大斎節の黙想集を執筆するためでした。

大韓聖公会フランシスコ修道院は修道士による定期的なリトリートやみ言葉の黙想の訓練が行われている霊的な場所です。わたしはそこで修道士たちと朝から夜まで共同生活を過ごして参りました。

韓国でのリトリート報告

期間：2014年5月12日(月)から29日(木)

場所：韓国大韓聖公会フランシスコ修道院

✦生活の日程



夜明けの黙想、朝の聖餐式、昼の祈り、夕の礼拝、就寝の祈り

✦大斎節黙想集の執筆



フランシスコ修道院には、み言葉の黙想に造詣が深い修道士さんがいます。趙司祭とは昔からの知り合いで、その方に黙想集の執筆について様々なアドバイスや指導を頂きました。若いので未熟なところがたくさんある趙司祭にとっては本当に恵まれた学びでした。その修道士さんはお忙しいにも関わらず、趙司祭の原稿を全部チェックしてくださり、様々なアドバイスをしてくださいました。

フランシスコ修道院で宿泊しつつ本の執筆を行いました。過労のため、一時期病気にもなり、修道士さんたちにも心配をおかけ致しましたが、来年度の黙想集を楽しみにしてくださる婦人会の皆さまの笑顔を思いつつ、頑張りました。

日本聖公会婦人会の皆さまの応援とお祈りに、感謝とお礼を申し上げます。

まの みちのり  
 司祭 パウロ 眞野 玄 範 (横浜教区) 



3年半前に神学校を卒業して、八ヶ岳の麓、長坂聖マリヤ教会に派遣されて以来、アルビノであるために学校に行かせてもらえなかった方、子どもの時に顔に負った大きな火傷のために家にこもっていた方など、様々な事情で地域の中で隠れるようにして生きていた方々が、福音に光を見いだして教会に来られるようになった話をお聞きしてきました。その中で、以前NCCの幹事として関わったNCC日韓キリスト教「障がい者」合同交流セミナーに、ぜひ長坂の信徒と共に参加したいという思いを強く持つようになりました。今回、被献日献金からのお支えによってそれが実現して、とても感謝しております。そのような経緯があつてのことでしょうか。以前は、韓国では、盲人は盲人だけというように、各々の「障がい」に特化した形で教会が形成されているという日本との違いに目が向いていましたが、今回はむしろ共通点に気がつかされました。そこで「光」が与えられるから、解放を与えられるから、人は教会に集まるのだ、という根本における共通点です。ご一緒した長坂の信徒のKさんは、初めての海外で、言葉、文化等、何も分からずストレスが大きい中でも、韓国の皆さんと一緒に捧げた礼拝に感動され、行ってよかった、と言ってくださいました。あらためて、お支えに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

いしがき すずむ  
 聖職候補生 モーセ 石垣 進 (京都教区) 

#### 被献日献金に感謝

被献日献金から『新約聖書釈義事典』をご恵贈いただきありがとうございます。これで全3巻揃いました。これまでのお祈りを感謝します。

この事典は奨励を作成する時に活用させていただいています。利用方法といたしましては、自分が気になる語句を引いて本来的な意味に近づいていくという使い方をさせていただいています。現状で一回の奨励で、1～2度程度ですが、多くの気づきと示唆を与えられ、本質に迫り、話の内容が深まっているように感じています。さて、派遣された教会は、母教会であるがゆえに孤独になってしまいましたが、わたしの意志が強く働いたものが召命ではなく、今は、神さまがここで何をするか命じてくれます。神の声を聞き、神の民に仕え、教会は地域に仕えることができるように祈っています。岸和田復活教会の婦人会は教会の中核として存在していますので、キリストの枝として小さいながらも「日聖婦」を支えていくことができるでしょう。ありがとうございました。

しもはら だいすけ  
 司祭 ヨセフ 下原 太介 (中部教区) 

日本聖公会婦人会の皆様、また、同婦人会のお働きを覚え、被献日献金をお献げくださった各教区・教会の全ての皆様、この度はその尊いお志しの中から、教役者の生涯教育の一環として、私の書籍購入の願いをお受け入れくださり、心から感謝申し上げます。

私は、ここ数年、教会の働きと共に保育園の園長兼チャプレンとして働かせていただいております。その日々の中で様々な働きに追われ、それを言い訳に、神学的・信仰的学びの自己研鑽に時間を割くことを後回しにしてきてしまいました。その状況の中で、自己の信仰的な面においても、聖職者としての聖務の執行においても、次第に深みや幅、また神秘性などが失われ、聖職者としても、一人の信仰者としても、非常に表面的な働きしかできていないことに、悲しみと危機感を感じておりました。

今回、思い切って、被献日献金活用申請をさせていただき、その申請を受理してくださった全ての方々、また、被献日献金をお献げくださった全ての方々のご期待に応えるために、再び神学的・信仰的学びの自己研鑽に努めるよう決意を新たにしております。

その学びによって、私の教会での働きも保育園での働きも、全てが神様の愛をこの世界に伝えるために、より彩

り豊かなものとなるように願っております。そして、その働きを、教会に集う全ての方々の信仰生活をより一層、喜びと希望に満ちたものへと還元できるように、皆様から託されたお志しに対し、しっかりと責任を果たしていきたいと願っております。この度は、本当にありがとうございました。

なかお くみこ  
📖📖📖 聖職候補生 プリスカ 中尾 貢三子 (京都教区) 📖📖📖

被献日献金をいただいて

＋主の平和がありますように。

このたび、被献日献金活用申請を承認していただき、ありがとうございます。

この機会にずっと以前から欲しかった『キリスト教大事典』をと願っておりましたが、版元絶版ということで、それに相当する資金を支給していただきました。幸いインターネットで程度のよい古本を探して入手することができました。また支給していただいた資金からマタイ福音書の註解書も3冊購入させていただき、奨励や聖書研究にフルに活用させていただいております。

このような形で、神学の学びを続ける教役者や神学生を支えてくださっていることのありがたさを実感しております。このことによってみ言葉を語る側が養われ調えられていくこと、それが教会全体を豊かにしてきたこと、これからも豊かに育てられていくであろうことを思います。どうぞ、皆さまのお働きがさらに祝福されますように、と心からお祈り申し上げます。

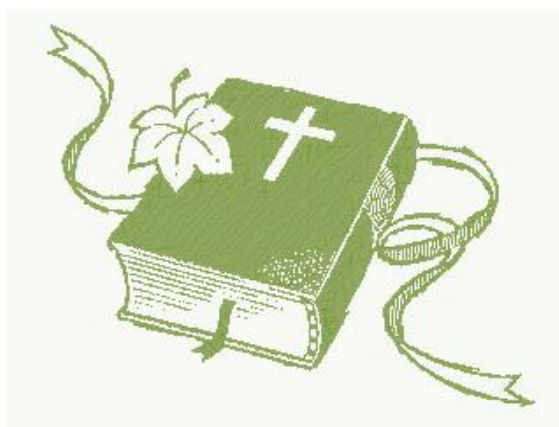
きたざわ ひろし  
📖📖📖 聖職候補生 サムエル 北澤 洋 (横浜教区) 📖📖📖

主の平和

日聖婦の皆様には、いつもお祈りとお支えをいただきまして誠にありがとうございます。皆様からの献金によって、以前より希望しておりました図書を購入していただきました。心から感謝です。

購入していただいた図書は、現代聖書注解『マタイによる福音書』（日本キリスト教団出版局）、同『マルコによる福音書』、同『ルカによる福音書』、同『ヨハネによる福音書』です。「現代聖書注解」は、世界的に著名な聖書学者が執筆している注解書で、最新の聖書学の研究結果が多く反映されています。特にその注解は、説教や奨励を作成する際の黙想の過程で大きな示唆を与えてくれるものです。「黙想」というのは、聖書のメッセージから、何を信徒さんに向けて発信するのかということについて思い巡らすことを意味します。黙想のヒントになるさまざまな言葉が、この注解書には散りばめられていると実感します。

この注解書を活用して学びを深め、よりよいメッセージを信徒さんに発信していければと思っています。この度は本当にありがとうございました。どうか皆様の上に、神様の祝福とみ恵みが豊かにありますように。





## 《有志枠》

### 神戸伝道区婦人会「巡礼の旅」一日研修

神戸伝道区婦人会 ルデヤ 覚前 康子

被献日献金を活用させていただき、2014年7月1日(火)に一日研修を実施いたしました。

#### 岸和田復活教会



聖ミカエル教会を朝8時に出発し、和歌山に近いということで遠く思っていました。9時には岸和田復活教会に到着しました。

石垣聖職候補生と十数名の婦人会の皆様の笑顔いっぱいのお迎えを受け、きれいに整備されたお庭を見ながら礼拝堂へ。

石垣聖職候補生が、ウイリアムス神学館在学中に、ミカエル教会で主日実習をされたことがご縁となり、今回の訪問となりました。

上原司祭(神戸聖ミカエル教会)の司式、石垣聖職候補生の補式で聖餐式とともに受けました。その後、皆様との交わり。岸和田の婦人会の現状を伺いました。何処かの教会で共にご奉仕した人たちがおられたりして、話に花が咲きました。また各教会での再会を約束し、短い時間を惜しみながら次の場所へと移動しました。

昼食は京都へ移動し嵐山で。水害の被害からの早い復興を感じ、自然溢れる中で日頃の疲れを癒し、次の目的地ウイリアムス神学館へ移動しました。

#### ウイリアムス神学館

ウイリアムス神学館は1948年に、婦人伝道師と男子レイリーダーの養成を目的として始められ、その後時を経て、教役者を志願する方の訓練が中心的使命となり、今年で66年目に入っています。

吉田雅人館長から教役者育成への思いのこもったお話を伺いました。最後に吉田館長は「ここに来る生徒が、明日への日本聖公会を担う教役者として育って行くことを常に祈り願っております。神学館は、多くの方々のお祈りとご支援のもとに成り立っています。どうぞよろしく。」と締めくくられました。



#### 守口ぶどうのいえ



「守口ぶどうのいえ」は、2015年に10周年を迎えられます。退職司祭の山上司祭が管理されておられますが、専任の働き手が与えられることを、祈っておられました。この4月から週3日間、信徒の方が勤務され、この日も私たちを迎えてくださいました。次の10年に向けて「オープンハウス」を計画されているそうです。

各教会婦人会の働きはいろいろ違います。高齢、無牧、信徒数が少なく厳しい状態の所もありますが、神様の助けを頂きながら、おかれた所でできることを、内なる働きや外なる働きをしていきたいと思ひます。神様ご従ひ、希望を持って歩んでいきましょう。

この度は盛り沢山のスケジュールでしたが、道路の整備もよく、こんなに近くに沢山の友がいること、心強く励まされ、活力を与えられました。この度の私どもの企画にご理解頂き、支援くださいましたことを感謝いたします。

## 京都伝道区秋の修養会

京都伝道区婦人会担当教会 京都聖三一教会 ルデヤ 柳原 嘉子

被献日献金活用申請において、皆様からの大事な献金を下記の講演に使わせて頂きました。ありがとうございました。

京都伝道区婦人会では、年2回の集まりをもっております。

1回目は、2月2日の被献日礼拝・2回目は秋の修養会です。

今年の秋の修養会は、10月15日京都教区センターにおいて京都伝道区婦人会と京都教区婦人会のハートフルプランとの共催でⅠ部は「福島からのメッセージと写真展の会」をⅡ部は交わりの時を持ちました。

今回、54名の方々と共に東日本大震災により福島から京都に自主避難されています西山祐子さんの《「福島のことはわすれない」～自分のこととして～》のお話をお聞きいたしました

西山さんは大震災が起り、すぐに京都にお子さんと御両親とで自主避難され、それから関西方面に避難されている方のネットワークとして「みんなの手」を立ち上げ、今は関西と東北を結ぶ架け橋事業として同級再生プロジェクト(福島の子供達の夏のキャンプ)・家族再生プロジェクト(京都-福島間バス運行)等や、みんなのカフェ運営、その2階をも様々の活動の場として開放されています。

東日本大震災が起り3年、放射能汚染問題・離ればなれになっている家族の問題などまた新たな問題が起こっています。

お話しの中で「福島の事は、福島だけの事ではなく、自分のこととして考えて欲しい」とおっしゃっていました。ニュースでも詳しい現状はなかなか聞かされませんが、私達は常に東北のことを心に留め、祈ることを忘れないようにしたいものです。

## 第21回GFS世界会議（ウェールズ大会）報告

日本聖公会 GFS 会長 マリア 与那嶺 あさ子

ウェールズで開かれた第21回GFS世界会議は、7月24日から8月3日にかけてスウォンジー大学に於いて加盟国約20か国のうち参加国18か国、180人ほどが参加しました。各国が活動報告し、新しい議題について協議し、学生からシニアに至るまで楽しく交流を深めることができました。

役目を終えて無事に帰ってきた今、振り返ってみても、報告書の準備等で大変だったこと以上に、たくさんのお恵みをいただいたことに気づき、感謝の気持ちでいっぱいです。こんなに素晴らしい機会を与えてくださった皆さま、沖縄教区や信徒のみなさま、そして日聖婦からも献金を頂き、大勢の方のお祈りとお支えのおかげでウェールズまで行くことができた深く感謝しています。ありがとうございました。

日本からはジュニアデリゲートの中村絵美里さん、シニアデリゲートの私、上原榮正チャプレンと西平妙子チャプレン補とオブザーバー5名(上原百子姉、平上千鶴子姉、中村淳子姉、村田由佳姉、真志喜稲子姉)、ジュニア2名(真志喜結子さん、村田真優さん)、一般参加の家族3名の総勢14名で参加しました。今回は、3年前にGFSワールドから緊急支援基金を頂いて活動してきたミシンプログジェクトと月島キッズ



デーという日本GFSの活動報告が会議の最初に行われることになり、とても緊張したのですが、昨年11月東北に入り直接被災者の方がたにお会いし撮影した写真や風景をパワーポイントにまとめ各国代表のみなさんやオブザーバーにお見せすることで、議員一人ひとりの印象に深く残ったようでした。ジュニアデリゲートの中村絵美里さんも



カントリーレポートという日本活動報告をパワーポイントで立派に発表して下さいました。若い世代の堂々とした発表が本当に嬉しく、GFSの未来は明るい目が細くなりました。そして日本GFSのメンバー1人ひとりと国を超えてアメリカGFSのリン姉の支援も受け頑張った結果として、東日本大震災支援プロジェクトが新たにワールドプロジェクトに採択されました。GFSワールドは、日本GFSの為に更に支援金の額を倍に増やして下さいました。私たちGFSは弱くて小さい群れですが、GFSワールドの好意と友情に心から感謝して、これからの3年を歩んでいきたいです。

最後になりますが、日本聖公会婦人会の方々からも貴重な献金を頂き、無事にウェールズの世界会議に参加することができました。ありがとうございました。



## リグリマ 10 周年記念集会への参加と諸施設訪問の報告

感謝箱献金事務局スタッフ アンナ 土屋 晴子

2014年11月27日リグリマ・ジャパン代表の上澤伸子さんとバングラデシュを訪問致しました。

28日早朝 ダッカから車で5時間、ビリシリのガロ・バプテスト教団敷地内にあるゲストハウスとホールで式典が行われました。ガロは12の地域にグループがあり、今回は8グループが集結、31名の参加になりました。皆、こぼれる様な笑顔で再会を喜び、リグリマ代表のラブリーMダゼル夫妻に感謝し、優しくあたたかい人々でした。

夜の開会式では、祈りから始まり、日本聖公会婦人会からのメッセージをお伝えしました。

翌朝 バプテスト教団のスタッフと共に礼拝、そして、上澤さんとラブリーさんの「共に歩んだ10年間」のパワーポイントを見ながらの紹介、ガロ民族の絆の強さ、支援への感謝、



リグリマ・バングラデシュ代表 リトン氏  
(ラブリー・ダゼルさんの夫、バプテスト教会  
牧師)から記念の盾を贈呈された



そして沢山の苦勞を支えあい乗り越えてこられた 10 年間を知る事が  
できました。

次に各地方グループに分かれ 5 つの援助希望を公表、まだまだ山積  
する支援の必要性を痛感しました。日本から持参したお菓子でお茶を  
楽しみ、今後の 10 年に向けての討議が行われ、最後に日本聖公会婦  
人会に素晴らしい感謝の盾が贈呈されました。

終了後、ガロの各グループが手芸品のミニバザーを開き感謝箱で支  
援している裁縫プロジェクトで作成された刺繍製品が陳列され、頑張  
っている姿がうかがわれ、支援の成果を確認しました。

翌朝車でダイリパラへ。ワールドビジョン(キリスト教 NGO)を訪  
問、子どものピース活動の拠点、スポンサーシップを受けている親  
の生活向上教育支援プログラム、農業プロジェクト、文化支援、母と  
子の健康プロジェクトの様子を視察しました。次にハルアガードの修  
道院訪問。ここの教会の建設にアメリカの感謝箱献金が用いられてい  
ました。隣接してセントアンドリュース中学と高校(アングリカンに  
よって設立)があり、現在 1200 名の生徒が学んでおり、男子寮 65 人  
女子寮 150 人が入寮しています。

車で宿泊先のジョイランクラにあるガロ・バプテスト病院ゲストハウスへ。ガロ・バプテストホスピタル  
を訪問、この日は休診日でしたが普段は列を成す混みあいとの事、衛生面等全てに支援の必要性を痛感しまし  
た。翌日、ダッカに戻り、心を残しながらの帰国となりました。

今回、被献日献金から研修費として支援いただきましたことを感謝いたします。



記念集会での一コマ、感謝箱が支援している  
「裁縫プロジェクト」の成果作品



ガロの人々が暮らす家屋



## 日本聖公会・大韓聖公会宣教協働 30 周年記念大会に参加して

日本聖公会婦人会役員 ルデヤ 柳原 嘉子

2014 年 10 月 20 日～23 日、韓国の済州島において日韓宣教協働 30 周年記念大会が開催されました。

参加者は日本から 52 名（内女性 9 名）韓国からは 33 名（内女性 5 名）でした。

日韓宣教協働 20 周年に「両聖公会は管区次元で積極的な女性の交流を推進し、宣教活動における女性のリーダーシップの育成をおこなう」共同声明がでていて、次の年、韓国のオモニ会から日聖婦に修養会のお誘いがありましたが行く事ができず、それ以降交流を持つことがありませんでした。

今回、宣教協働 30 周年のお誘いがあり、是非とも韓国の女性の方との交流を持ちたい思い、参加いたしました。色々なプログラムがありましたが、初めの計画には女性の交流の場がなかったのですが、天候や諸事情変更により、女性だけのグループディスカッションの時間を作ってくださいました。

韓国には女性司祭・聖職者が現在 20 人おられますが教会での働きをされているのは 1 人だけで他の人達は、何か他の仕事をしながら分かち合いの家でのお働きをされています。

また、妊娠中の司祭だと陪餐拒否をされる人もおられるとか、私はびっくりしましたがみなさんはいかが思われますか？

韓国のオモニ会は昔アメリカから支援を受けておられました。今はマザーズユニオンに 2700 人程が入会し、そこからの支援を受けておられますが、年間 10 万円ほどの会費を納めておられ、世界とのつながりを持っておられます。

韓国では今まで、研修会への参加はすべて自費での参加、教区やオモニ会からの補助は無かったのですが、今回初めて 1 名の交通費の補助をしてもらわれたようです。青年達も同様に補助がないためアルバイト等をして参加しておられます。

南北問題についても色々な考えがあると思いますが、韓国の井戸端プロジェクトでは脱北女性の保護・支援をされています。これは北朝鮮への支援ではなく、あくまでも北朝鮮から逃げてきた人の支援です。

オモニ会は活発で修養会では 1 泊泊まりで 500 人もの方が集まり、3 教区の交流を持ち、聖歌隊のコンクールがあり、このコンクールは人数の多い少ない・上手下手ではなく、どのように取り組んできたかが審査されます。

今回、「日韓聖公会宣教協働 30 周年記念大会」共同声明が採択されました。

《両聖公会は、「宣教協働 20 周年記念大会共同声明」に掲げた女性の交流が不十分であったことを反省し、女性が互いに学び合い、協働できる環境を整える。そのための定期的な交流を進め、意思決定機関および諸委員会における女性の比率が 30%以上となるように努める。》

私達も話しあいの中で、是非これからの交流を持つ方向で話し合いをしました。

女性のグループ（日本の管区女性デスク・GFS・日聖婦と韓国の GFS・オモニ会）がお互いどの様な交流ができるか皆さんで考えていけたらと思います。

日本から原発・9 条・沖縄・ヘイトスピーチの現状報告がありました。

その中で、ヘイトスピーチ（人種差別・排外表現）の事を生野センターの呉光現さんからのお話と映像を見ました。その映像を見てとてもショックで何も言えずただ涙が流れるばかりでした。実際その場に出くわしたら私はどうするのだろうかとも今自分への問いかけです。

今回は全教区の主教様・司祭様が来られていましたので、なかなかお目にかかる事のない先生ともお話しができとても大事な時をいただきました。

金善姫先生には大変な通訳をして頂きありがとうございました。韓国からの女性聖職者の参加がなくとても残念でしたが、金先生と後藤香織先生が共に参加して頂きご助言を頂きありがとうございました。

今回、韓国に行かせて頂き感謝です。自分の目で見て感じる事の大切さがさらに感じられた宣教協働 30 周年でした。

主の平和がありますように

新しい年を皆さまお元気にお過ごしのことと思います。

日本聖公会婦人会役員会では、神さまのみ心に適う働きができますようにと、祈りつつ歩んでいます。

今年も、日本聖公会婦人会創立記念日でもある被献日の礼拝を、皆さまとご一緒にお献げすることができ、感謝と喜びに満たされました。

また、全教区婦人会の皆さまの日々のお働きとお祈りに感謝申し上げます。これからも、役員会と皆さまの思いが共有できることを願っております。

昨年は、神戸教区でポール・マイケル・トルハースト司祭、池澤隆輝執事、杉野達也執事、大阪教区で千松清美司祭、古澤秀利司祭、義平雅夫司祭、京都教区で古本靖久執事、岩田光正司祭、横浜教区で吉田仁志執事、北関東教区で平岡康弘執事と多くの聖職の方が按手され、日本聖公会婦人会として皆さまの喜びとお祝いのお気持ちを届けて参りました。これからの尊いお働きをお祈り申し上げます。



## お知らせ

### 《被献日献金申請》

2015年度の被献日献金申請の締め切りは、

「有志グループ・教役者枠」は3月31日です。

「神学生枠」は4月30日です。

「教区婦人会枠」は随時です。

ニュースレターの活動報告を参考にさせていただいて、皆さまの学びに役立ててください。



### 《会長会》



第24回（定期）総会后第2回会長会は、京都教区センターに於いて2015年6月17日（水）～18日（木）の日程で開催されます。

昨年、感謝箱献金にご協力いただきました「刺繍カード」を今年も違うデザインでご紹介させていただく予定ですのでご協力よろしくお願いたします。

### 【編集後記】

教区婦人会で任期を終えられた役員の方におかれましては、日本聖公会婦人会役員会へのご協力とお祈りに感謝申し上げます。また、新しく教区婦人会役員に就かれた皆さま、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ニュースレターはホームページでもご覧いただけます。

[www.nskk.org/fujinkai/](http://www.nskk.org/fujinkai/)

